



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

植物を育てることを通して

校内に、新たなたくさんの命があふれています。1年生は朝顔、2年生は野菜、3年生はホウセンカ、4年生はへちまを育てています。お米の苗も届いていて、4年生が田植え作業前の苗のお世話もしています。生命あるものに触れていくことは、子供たちの心の成長に欠かせないと考えます。

登校すると、いつも自分たちが育てている植物を見に行き、水をかけたり、大きくなった様子を友達同士で話をしていたりと微笑ましい様子が見られます。しかし、27日(金)の朝は、2年生が育てている野菜の鉢が、支柱を立てていることで風の影響を受け倒れていました。いつもと異なる様子に、「茎が折れてしまう」「土がこぼれてしまう」等と言いながら、何度も何度も子供たちは倒れた鉢を起こしていました。起こしては倒れるということが繰り返されていくように、ある子が「移動したらいいんじゃないかな」とつぶやきました。そのつぶやきに、みんなが動き出しピロティーに移動し始めました。子供たちには、教室に戻るように伝え、その場にいた私ともう一人の教員で移動をしていると、「2人で大丈夫ですか？」と心配そうに声をかけてくれた子がいました。後から他の先生たちが来てくれるから心配はいらないことを伝えましたが、2年生の子供たちが、作業をする私たち大人のことを思いやれる温かな心に接し嬉しく思いました。野菜の苗の世話をし日々成長していく様子を見てきた子供たちにとって、植物が特別な大切な存在になっ

ていること、そしてそのことが子供たちの中にあるよりよい心の動きを引き出すきっかけになっているのだらうと思います。

「きみがバラのために費やした時間の分だけ、バラはきみにとって大事なんだ」

(星の王子さま：サン＝テグジュペリ著)

この言葉は、王子さまにキツネが語る言葉です。王子さまは、たくさんお世話をしてきた一本のバラが、他の多くのバラとは異なる特別な存在となっていることに気づいていきます。子供たちの姿を見て、この箇所がふと頭をよぎりました。

お世話している植物が、これからさらに成長し、花を咲かせ、種や実を実らせ、変化していく様子に子供たちは、さらに思いを強くしていくと思います。思いを強くしていく中で、たくさんの心の動きが引き出されることと思います。子供たちの様子を楽しみに見守っていきたいと思います。

6年生と1年生

6年生が掃除の時間、1年生と共に活動しています。6年生の後ろをついて箒ではなく1年生。1年生が、箒ではけているか、床拭きを行えているか、1年生のペースに合わせ、よく見ながら掃除を進めている6年生の姿が素晴らしいと思っています。また、友達の手が手の上ののってしまった1年生の手を優しくさすって心配していた6年生。「1週間がんばったね」と温かな言葉をかけていた6年生。掃除終了後も、1年生と一緒に手を洗いに行く6年生。関わりの中で頼もしい姿を見せています。1年生に大きな存在である6年生に感謝です。